

## ローレビュー最終号の刊行に当たって

明治学院大学法科大学院ローレビューは本号を最終号とすることとなった。本法科大学院開設は2004年4月であったが、ローレビュー創刊号を開設間もない同年7月に刊行し、爾来13年間、年2回の刊行ペースを維持し、25号の最終号に至った。日本の法科大学院のローレビューとしていち早い創刊であり、定期的に刊行を続けることができたことに誇りを持っている。

創刊に当たり、京藤哲久前法科大学院長（大学院法務職研究科長）は、創刊の辞において、「よい法曹を育てるためには、細分化された法学が陥りがちな視野の制約から解き放たれたあらたな横断的法学の展開と、あらたな法学教育方法の開発が求められている。この度発刊される『明治学院大学法科大学院ローレビュー』が、その実験場として、日本の法科大学院の歴史と歩みをともにしながら、発展していくことを期待している。」と述べられた。

社会人や他学部出身者にも広く門戸を開き、多様な人材を法曹として送り出そうとした明治学院大学法科大学院は、数多くの法曹資格者を生み出すことに反対する法曹界をはじめとする社会の風潮に抗しきれず、残念ながら今年度を以て閉校することとなった。これに伴いローレビューも廃刊することとなったが、「創刊の辞」に述べられたローレビューの役割は13年間の刊行によって一応果たし得たと自負している。

本ローレビューには、明治学院大学法科大学院において教鞭を執った研究者・実務家の研究成果はもとより、明治学院大学法学部の多くの教員の論説も掲載することができ、きわめて多彩かつ貴重な内容のものとなった。また、法科大学院助手・法科大学院附属研究所研究員等として研究者としてのスタートを切った若手研究者の研究発表の場としても、大きな役割を果たすことができたと思う。

最終号には、論説・判例研究のほか、明治学院大学法科大学院の歴史、教員・修了生から寄せられた「思い出」、法科大学院閉校を前に退職された京藤哲久前法科大学院長の記念講演を掲載した。

「法科大学院の教育と研究は、理論家と実務家の交流を、法学の諸分野の交流を本格的に可能にした。この交流は、教育の姿を変え、研究の姿を変える。そして、理論家の姿を変え、実務家の姿を変える。」（京藤・創刊の辞）と信じて法科大学院教育に携わってきた我々法科大学院の教育・研究の成果をこのローレビュー最終号からくみ取って頂ければ幸いである。

大学院法務職研究科長  
渡辺 咲子